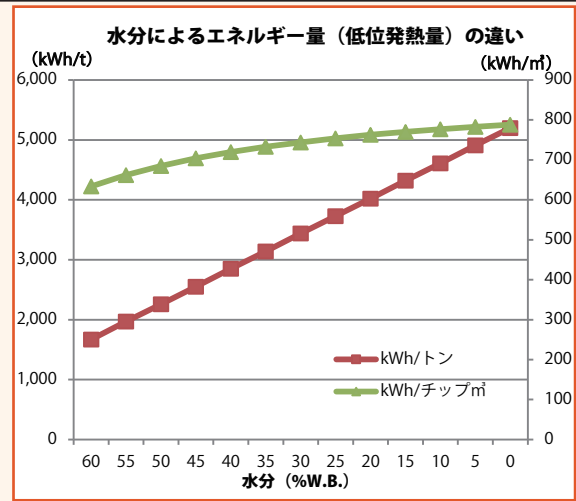


## 《乾燥チップのメリット》

- 乾燥により元のチップ量に対して低位発熱量が増加します。
- チップ供給者様にとって付加価値の高い商品となります。
- チップ需要者様にとって利用システムの安定稼働に貢献します。

参照: LWF(バイエルン州森林・林業局)資料より作成。  
単位: かさ密度は 0.3トン/チップ<sup>3</sup>m (50%W.B.の時)



## 《乾燥能力例》

熱源50 kW (85⇔65℃温水) で約2,000<sup>3</sup>m/年のチップが乾燥可能です。

### ◇基本仕様及び諸条件

ファン風量	150~350 m <sup>3</sup> /h・チップ <sup>3</sup> m	
乾燥用温風温度	50~80℃	※条件による
チップ容量	8 m <sup>3</sup> /コンテナ	最大値
乾燥前生チップ水分	50 %W.B.	
乾燥後チップ水分	25 %W.B.	
生チップかさ密度	300 kg/m <sup>3</sup>	50%W.B.時
乾燥チップかさ密度	200 kg/m <sup>3</sup>	25%W.B.時
生チップ低位発熱量	2.2 kWh/kg	50%W.B.時
乾燥チップ低位発熱量	3.8 kWh/kg	25%W.B.時

※仕様等は予告なく変更することがあります。

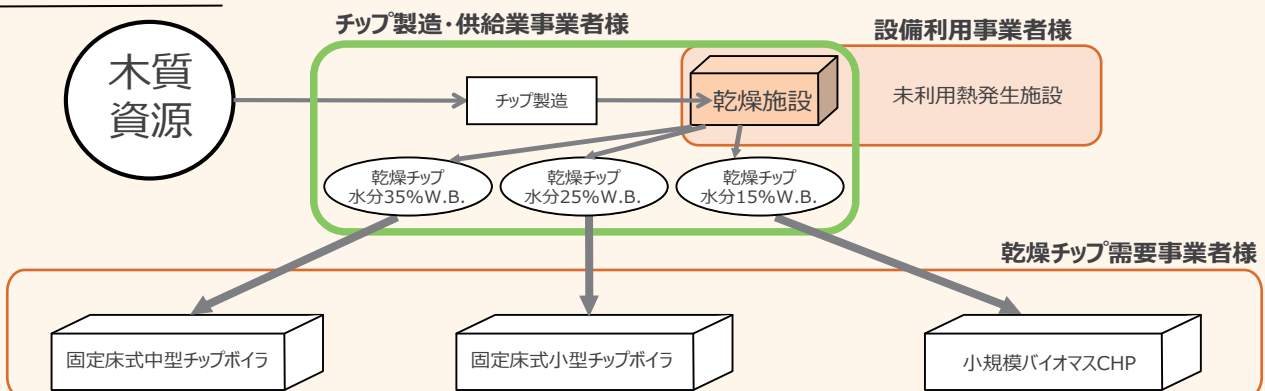
### ◇乾燥処理能力

チップ乾燥量	8 m <sup>3</sup> /回	コンテナ1基の場合
乾燥日数	1~2 日/回	※条件による
設備稼働率	70%	%
年間乾燥回数	255 回/年	1日/回 時
合計チップ乾燥処理量	2,040 m <sup>3</sup> /年	
生チップ年間取扱量	612,000 kg/年	50%W.B.時
乾燥チップ年間生産量	408,000 kg/年	25%W.B.時
生チップ総発熱量	1,346,400 kWh	50%W.B.時
乾燥チップ総発熱量	1,550,400 kWh/年	25%W.B.時
増加低位発熱量	204,000 kWh/年	
熱量増加率	約15%	

## 《地域内における乾燥チップの利用》

低温未利用熱を用いた乾燥施設により乾燥チップを供給することで、ボイラやCHPなど、地域にバイオマス利用の選択肢を増やします。

### 乾燥チップ地域システム例



《お問い合わせの際には以下9つの条件をお教え下さい》

- 計画地について ①導入地域(市区町村) ②導入可能スペース(m<sup>2</sup>)  
 チップについて ③初期水分(W.B.%) ④目標水分(W.B.%) ⑤使用量(t・目標水分%/年、又はm<sup>3</sup>/年)  
 未利用熱について ⑥熱量(kW)又は温水流量(m<sup>3</sup>/h) ⑦稼働日数(日) ⑧供給温度(℃) ⑨還り温度(℃)



乾燥可能量の試算・お見積り・ご質問等は以下まで御連絡下さい。

▼各種お問い合わせ

株式会社日比谷アメニス 環境エネルギー部 〒108-0073 東京都港区三田4-7-27

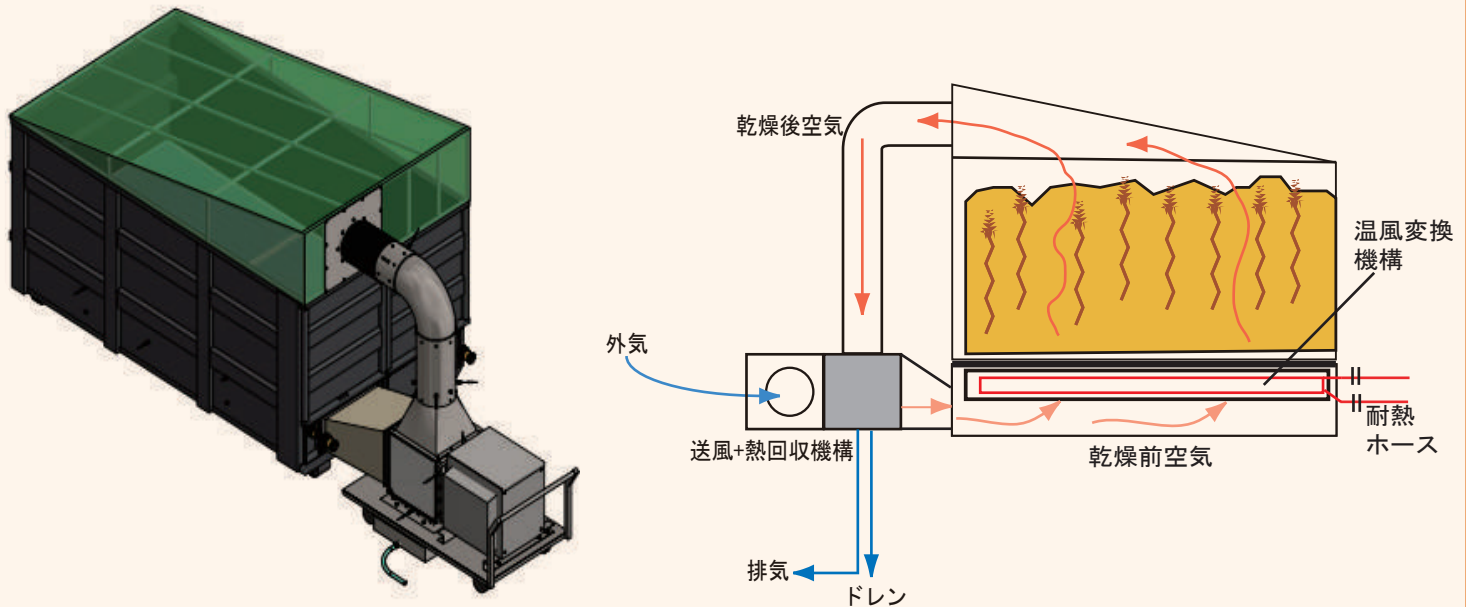
Email: kankyo@amenis.co.jp TEL: 03-3453-2409 FAX: 03-3453-1359

# 未利用熱木質チップ乾燥システム

～使われていない熱で木質バイオマスを乾燥する～

## 《乾燥チップの重要性》

木質バイオマスの利用拡大に伴い、木質チップの需要量が増加します。現状は賦存量豊富な木質資源も、有限なものとして効率的な利用が必要となります。そのために、未利用の熱源とチップの乾燥をマッチングさせるシステムをご提案します。



特許出願中

## 《システムの特徴》

- 未利用の低温熱を用いて木質チップを効率よく乾燥します。
- 熱回収機構により、排気の熱エネルギーを有効活用します。
- 乾燥システムを設置し、熱源からの配管接続ができれば導入完了となるシステムです。
- 熱源(温水、温風等)に合わせて乾燥システムをアレンジ可能です。
- 各センサーにより、システムの稼働状況を把握可能です。
- 脱着式コンテナを用いることで、乾燥後そのまま運搬が可能です。



重機による積み込み作業



限られたスペースにも  
設置可能なコンテナ式



脱着装置付き車両により  
運搬が可能